

令和5年度 志免町立志免中学校 重点目標達成のための職員自己評価

・評価尺度 : 4点(80%以上達成) 3点(60%~79%)、2点(40%~59%)、1(40%未満)

職務に関する項目

No	経営の重点	項目	前期	評価	後期	評価	総合評価
1	本教 育公 務員 とし ての 基	教育公務員としての職責や義務(法令遵守や秘密の保持)を自覚して業務に取り組んでいる。	4	A	4	A	A
2		不祥事は決して起こさないという強い覚悟をもって、業務に取り組んでいる。	4	A	4	A	A
3		教育公務員として人権に係る感性や感覚を意識した教育活動を行っている。	4	A	3.9	A	A
4		教育公務員として、適切な服装や丁寧な接遇(挨拶、来校者対応、電話応対等)をしている。	3.7	A	3.8	A	A

本年度の重点目標

主体的に考え行動する生徒の育成

本年度の重点目標達成のための6つの方策

No	経営の重点	項目	前期	評価	後期	評価	総合評価
1	関自 方 策 の 有 ① あ る 感 集 を 団 高 づ め く る 共 感 的 人 間	生徒が主体となって動かす自治的な生徒会活動の活性化に努めている。	3.3	B	3.3	B	B
2		総合的な学習の時間での校外活動や地域貢献活動(部友会の活動を含む)で、体験活動を通じた社会性と人間関係形成能力の向上を図っている。	3.3	B	3.3	B	B
3		Web-QUや生活実態アンケートを活用して不登校未然防止及び不登校生徒への対応をしている。	3.4	B	3.3	B	B
4		Web-QUや毎月のいじめアンケートでいじめ未然防止及び早期発見、事案解決に向けて対応をしている。	3.6	A	3.6	A	A
5		自他の人権を尊重することを意識した集団づくりを行っている。	3.7	A	3.7	A	A
6	授確 方 策 な ② づ 学 く 力 を 育 成 す る 、 わ か る	教科の見方・考え方が動くような題材(教材)を取り入れた授業をしている。	3.1	B	3.4	A	A
7		授業をわかりやすくするためにICT機器(クロームブック等)を使ってソフト(ドリルパーク、ジャムボード等)を積極的に活用している。	3.3	B	3.4	B	B
8		生徒が「わかる」を自覚できるような「めあて」に対応した「振り返り」をしている。	3.0	B	3.2	B	B
9		生徒による授業アンケート結果を分析し、授業改善に取り組んでいる。	3.0	C	3.3	B	B
10		特別支援の視点を生かしたユニバーサルデザイン授業の展開をしている。(志免スタイルの実施)	3.1	B	3.3	B	B
11	健方 策 な ③ 心 と 身 体 づ く り	「SHIMEあいさつ」を率先垂範するとともに、日常のあいさつや授業でのあいさつ指導ができています。	3.5	A	3.6	A	A
12		「清掃活動」を率先垂範するとともに、10分間の清掃指導の徹底ができています。	3.3	B	3.5	B	B
13		SNSの使い方等、情報モラルに関する指導の徹底を図っている。	3.5	B	3.4	B	B
14		部活動指導では、技術や資質能力の向上をめざして、自主的、効率的な運営を行っている。	3.0	B	3.1	B	B
15	組方 策 な ④ マ ネ ジ メ ン ト の 推 進	校務分掌で自分の役割を理解して、同僚との意思疎通を図り、協働的に取り組んでいる。	3.4	B	3.6	A	A
16		常設委員会(運営委員会、研究推進委員会、生徒指導委員会等)と学年会議との連携がとれており、各取組の目的やねらいが共有できている。	3.2	B	3.3	B	B
17		自己の働き方改革を意識して、業務の効率化や能率化を図っている。	3.0	C	3.1	B	B
18		生徒支援に係る内容は、共有化シートを使って報告・連絡・相談を行い、完結している。	3.4	B	3.5	A	A
19		不登校生徒やヤングケアラーなど、支援が必要だと判断される事案に関しては、関係機関との確実な情報共有、連携ができています。	3.3	B	3.4	B	B
20	推学 方 策 な ⑤ ラ の 特 色 を 実 現 す る た り	年間行事・月行事・週行事による見通しをもった教育活動を実施している。	3.3	B	3.5	A	A
21		学校行事(体育会や文化週間等)の工夫・充実に取り組んでいる。	3.3	B	3.3	B	B
22		コミュニティスクールの取組を理解し、地域と連携した取組を実施している。	2.8	C	2.9	B	B
23		学校通信、学年通信、ホームページによる発信で、学校の取組や方針を地域や保護者に公開している。	3.1	B	3.4	B	B
24	の 実 方 策 な ⑥ 研 究 の あ	教師力の向上をめざした主題研修や一般研修、選択ミニ研修は、自己の深い学びにつながっている。	3.5	A	3.6	A	A
25		校外での研修(キャリアアップ講座、教科等研究会、サークル研修会等)は、育成指標に示されている自己の資質・能力向上につながっている。	3.5	A	3.5	A	A

【成果】

・教育公務員としての基本姿勢の項目において、果たすべき職責や義務の具体的な内容がわかるような不祥事防止研修を毎月実施し組織で内容を周知させることで、不祥事防止につながっている。

・自己有用感を高める共感的人間関係のある集団づくりの項目では、年2回のWeb-QUを活用して、学年で個々の生徒について学級満足度について細かく分析し情報共有を行った。さらに、不登校や不登校傾向の生徒にはマンツーマン対応はもちろんのこと、毎月に行われる教育相談会議において外部機関とつながることで登校刺激となり復帰率が上がった。

・健康な心と身体づくりの項目では、毎月の挨拶運動を中心にSHIME挨拶に取り組む生徒が増えている。在校生の来客に対する挨拶や部活動生徒の挨拶に地域や来校者からよい評価をいただいた際には、全校生徒に返すことで、さらに頑張ろうという姿勢もできてきた。

【次年度の方向性】

- ・「学びたい」「わかる」のある授業作りのために、ICTを活用して考えをアウトプットする場のある授業や教えることと考えさせることの減り張りのある授業を行っていくこと
- ・いじめ未然防止と不登校未然防止のために、生徒会活動を活性化したり、異年齢の活動を取り入れたりしながら、「一緒にやってみよう」がある共感的人間関係のある集団づくりを行っていくこと。
- ・マナー指導と3つの(時間・あいさつ・清掃)行動習慣の徹底を行うこと
- ・環境を整え、心を整えるための掲示物の充実
- ・自主的な効率的な部活動運営
- ・コミュニティスクールの取組で、「共創」というテーマのもと、子どもまん中地域をつくるためにできることを模索すること